

担当教員	開講年次	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
恩田 祐行	看護科 3年次 後期	1	15	講義	
I. 授業概要					
公衆衛生の概念と歴史を学び、保健活動を理解するとともに、健康社会実現に向け、今後の保健・医療・福祉の健康にかかわる現代の課題に目を向け、より良い未来を切り開いていくための基礎的知識を学習することを目的とする。					
II. 授業の位置づけ					
この科目は本学科のデュプロマ・ポリシー「4.安全に看護技術を提供するための科学的根拠に基づいた看護技術の方法が身についている」「6.地域の医療、福祉等関連領域の人々と連携するための基礎的能力をもち、広い視野と行動力が備わっている」に寄与している。					
III. 科目目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生の概念と歴史を理解する。 2. 現在の公衆衛生活動・地域保健活動の内容を理解する。 3. 健康社会の実現に向けて現状の保健活動内容健康に関わる現代の課題について理解する。 					
IV. 教科書					
系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 健康支援と社会保障制度② 医学書院 公衆衛生マニュアル2021 第39版 南山堂 国民衛生の動向					
V. 参考書					
VI. 評価方法					
評価：筆記試験100点の評価とする。					
VII. 学生への助言等					
予習、復習を自主的に行い、積極的に学ぶ姿勢で受講してください。					
VIII. この科目を到達するのに必要な課題・学習内容と時間					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の前後は予・復習を行う。(1日170分の予・復習：8回で1360分) 授業前は 指定の教科書、参考書を事前に読み、内容を整理しておく。 授業後は講義で学んだ部分について教科書の該当する部分を参考に、ノートや配布資料を整理しておく。 * 課題学習と授業時間を合わせて45時間(1時間は45分の計算とする)の学習により単位を修得するものとする。					
IX. 留意事項					

X. 授 業 計 画			
回数	単元名・授業内容	到達目標	担当名
1	公衆衛生の概念と仕組み(1) 公衆衛生の概念と仕組み①	公衆衛生の概念について述べる。	恩田 祐行
2	公衆衛生の概念と仕組み(2) 公衆衛生の概念と仕組み②	公衆衛生の歴史について説明できる。	
3	公衆衛生活動のプロセス 公衆衛生活動の意義と目的	公衆衛生活動の意義と目的を述べる。	
4	環境と健康(1) 環境と健康の概念と目的①	環境と健康の概念と目的について説明できる。	
5	公衆衛生の場での疫学と現状における保健活動内容(1) 保健統計	疫学的方法による健康について説明できる。	
6	公衆衛生の場での疫学と現状における保健活動内容(2) 保健活動の実際①	保健活動内容が説明できる。	
7	公衆衛生の場での疫学と現状における保健活動内容(3) 保健活動の実際②	保健活動の現代の課題について説明できる。	
8	試験 本試験		

担当教員	開講年次	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
葛谷 桂司	看護科 3年次 前期	1	15	講義	
I. 授業概要					
社会福祉および社会保障の意義・制度・役割を学び、保健・医療・福祉の連携について理解する。また、健康や障がいの状態に応じた生活支援に役立つ社会資源の種類と内容について学習することを目的とする。					
II. 授業の位置づけ					
この科目は本学科のデュプロマ・ポリシー「4.安全に看護技術を提供するための科学的根拠に基づいた看護技術の方法が身についている」「6.地域の医療、福祉等関連領域の人々と連携するための基礎的能力をもち、広い視野と行動力が備わっている」に寄与している。					
III. 科目目標					
1. 社会福祉・社会保障制度の基本概念と、保健・医療・福祉の連携について理解する。 2. 現代社会の福祉活動の実際と問題点を理解する。					
IV. 教科書					
系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度③ 医学書院					
V. 参考書					
VI. 評価方法					
評価：筆記試験100点の評価とする。					
VII. 学生への助言等					
予習、復習を自主的に行い、積極的に学ぶ姿勢で受講してください。					
VIII. この科目を到達するのに必要な課題・学習内容と時間					
1. 授業の前後は予・復習を行う。(1日170分の予・復習：8回で1360分) 授業前は 指定の教科書、参考書を事前に読み、内容を整理しておく。 授業後は講義で学んだ部分について教科書の該当する部分を参考に、ノートや配布資料を整理しておく。 * 課題学習と授業時間を合わせて45時間(1時間は45分の計算とする)の学習により単位を修得するものとする。					
IX. 留意事項					

X. 授 業 計 画			
回数	単元名・授業内容	到達目標	担当名
1	<u>社会保障制度と法制度</u> 社会保障制度 社会福祉の法制度	社会保障制度と法制度について説明できる。	葛谷 桂司
2	<u>社会保障の概念</u> 現代社会の変化 社会保障の概念とその動向	社会保障の概念について述べる。	
3	<u>社会保障の種類と目的(1)</u> 保障の種類と概念とその目的①	社会保障の種類と目的を説明できる。	
4	<u>社会保障の種類と目的(2)</u> 保障の種類と概念とその目的②	社会保障の種類と目的を説明できる。	
5	<u>社会保障の種類と目的(3)</u> 保障の種類と概念とその目的③	社会保障の種類と目的を説明できる。	
6	<u>社会保障の種類と目的(4)</u> 保障の種類と概念とその目的④	社会保障の種類と目的を説明できる。	
7	<u>社会福祉の分野とサービス</u> 高齢者福祉 障がい者福祉 童家庭福祉	福祉活動の実際と問題点を説明できる。	
8	<u>試験</u> 本試験		

担当教員	開講年次	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
岡本 庄平	看護科 3年次 後期	1	30	講義	
I. 授業概要					
<p>人口の急速な高齢化と著しい出生率の低下により、疾病構造の変化とともに、医療・介護・年金など我が国の社会保障制度の変革が急速に進んでいることの意味、的確に対応するために、新法の制定や法令の改正について学びと関連について理解できる基礎的知識を養うことを目的としている。</p>					
II. 授業の位置づけ					
<p>この科目は本学科のデュプロマ・ポリシー「4.安全に看護技術を提供するための科学的根拠に基づいた看護技術の方法が身についている」「6.地域の医療、福祉等関連領域の人々と連携するための基礎的能力をもち、広い視野と行動力が備わっている」に寄与している。</p>					
III. 科目目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療人として看護師の役割、責務等を法令を通して理解する。 2. 看護師として職務を遂行する上で必要な医療関係法規を理解する。 3. 法令を学び、健康支援と社会保障制度の関係性を理解する。 					
IV. 教科書					
系統看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令 健康支援と社会保障制度④ 医学書院 看護六法 新日本法規出版					
V. 参考書					
VI. 評価方法					
評価：筆記試験80点、レポート課題20点(評価基準については後日明示する)の合計100点の評価とする。					
VII. 学生への助言等					
予習、復習を自主的に行い、積極的に学ぶ姿勢で受講してください。					
VIII. この科目を到達するのに必要な課題・学習内容と時間					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の前後は予・復習を行う。(1日45分の予・復習：15回で675分) 授業前は 指定の教科書、参考書を事前に読み、内容を整理しておく。 授業後は講義で学んだ部分について教科書の該当する部分を参考に、ノートや配布資料を整理しておく。 <p>* 課題学習と授業時間を合わせて45時間(1時間は45分の計算とする)の学習により単位を修得するものとする。</p>					
IX. 留意事項					

X. 授 業 計 画			
回数	単元名・授業内容	到達目標	担当名
1	法の概念 法の概念とその目的	法の概念と目的を説明できる。	岡本 庄平
2	看護関係法令(1) 保健師助産師看護師法①	看護師の役割、責務等を法令を通して説明できる。	
3	看護関係法令(2) 保健師助産師看護師法②	看護師の役割、責務等を法令を通して説明できる。	
4	看護関係法令(3) 看護師等の人材確保の促進に関する法律①	看護師等の人材確保の促進に関する法律を説明できる。	
5	看護関係法令(4) 看護師等の人材確保の促進に関する法律②	看護師等の人材確保の促進に関する法律を説明できる。	
6	医事法(1) 医事法の仕組み①	医事法の仕組みが説明できる。	
7	医事法(2) 医事法の仕組み②	医事法の仕組みが説明できる。	
8	保健衛生法・環境衛生法(1) 保健衛生法・環境衛生法の仕組み①	保健衛生法・環境衛生法の仕組みが説明できる。	
9	保健衛生法・環境衛生法(2) 保健衛生法・環境衛生法の仕組み②	保健衛生法・環境衛生法の仕組みが説明できる。	
10	薬事法(1) 薬事一般に関する法律とその仕組み①	薬事一般に関する法律とその仕組みが説明できる。	
11	薬事法(2) 薬事一般に関する法律とその仕組み②	薬事一般に関する法律とその仕組みが説明できる。	
12	労働法と社会基盤整備(1) 労働法の仕組み①	労働法の仕組みが説明できる。	
13	労働法と社会基盤整備(2) 労働法の仕組み②	労働法の仕組みが説明できる。	
14	環境法 環境保全の基本法の仕組み	環境保全の基本法の仕組みが説明できる。	
15	総括・試験 授業総括 本試験		

担当教員	開講年次	単位数	時間数	授業形態	オフィス アワー
実習担当教員	看護科 3年次 前期	2	90時間	臨地実習	
I. 授業概要					
<p>周手術期にある成人の対象を理解し、周手術期にある対象の健康を回復する上での看護実践能力を養うことを目的とする。</p>					
II. 授業の位置づけ					
<p>この科目は本学科のデュプロマ・ポリシー「1.あらゆる看護場面における対象を全人的に理解し、看護実践できる能力を身につけている」「3.人々の畏れを理解し、常に何事にも誠実に対応できる倫理的判断に基づいた行動力が備わっている」「4.安全に看護技術を提供するための科学的根拠に基づいた看護技術の方法が身につけている」「7.専門職として生涯にわたって学ぶ姿勢が身につけている」に寄与している。</p>					
III. 科目目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 手術適応となった健康障害、予測される合併症、手術によって変化する機能を理解する。 2. 手術を受ける対象の健康障害の受け止め方を理解する。 3. 安全に手術が受けられるように援助を実施する。 4. 手術後の回復段階に合わせて、自立に向けた援助を実施する。 					
IV. 評価方法					
<p>評価：評価基準に基づいた合計100点とする。</p>					
V. 学生への助言等					
<p>担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行います。学習した知識・技術を活用して看護実践を行うため、知識や技術が他者に自信を持って活用・実施可能なレベルになるように取り組んでください。看護学生として臨地で実習を行う意味を自覚してください。そのため、看護学生として責任ある行動をとり、事前に学習・準備を行い、実習開始後は遅刻・欠席がないように、体調管理は十分に留意して積極的・主体的に学んで下さい。</p>					
VI. この科目を到達するのに必要な課題・学習内容と時間					
<p>事前学習として、成人看護学概論・成人看護学方法論Ⅱ・Ⅲで学んだ基本的な理論・知識・看護技術を整理しましょう。 各自の学習が患者への責任であることを自覚して、学習を進めていきましょう。</p>					
VII. 留意事項					

担当教員	開講年次	単位数	時間数	授業形態	オフィス アワー
実習担当教員	看護科 3年次 前期	2	90時間	臨地実習	
I. 授業概要					
<p>リハビリテーションが必要な成人期の対象を理解し、対象の障がいをつえ、自立した生活の再構築を目指す看護の理解と看護実践能力を養うことを目的とする。</p>					
II. 授業の位置づけ					
<p>この科目は本学科のデュプロマ・ポリシー「1.あらゆる看護場面における対象を全人的に理解し、看護実践できる能力を身につけている」「3.人々の畏れを理解し、常に何事にも誠実に対応できる倫理的判断に基づいた行動力が備わっている」「4.安全に看護技術を提供するための科学的根拠に基づいた看護技術の方法が身につけている」「7.専門職として生涯にわたって学ぶ姿勢が身につけている」に寄与している。</p>					
III. 科目目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーション期にある対象の全体像を説明する。 2. リハビリテーション期にある対象の健康障害を理解する。 3. リハビリテーションが必要な対象の社会復帰に向けた看護を実践する。 4. リハビリテーション期におけるチーム医療の必要性を理解する。 					
IV. 評価方法					
<p>評価：評価基準に基づいた合計100点とする。</p>					
V. 学生への助言等					
<p>担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行います。学習した知識・技術を活用して看護実践を行うため、知識や技術が他者に自信を持って活用・実施可能なレベルになるように取り組んでください。看護学生として臨地で実習を行う意味を自覚してください。そのため、看護学生として責任ある行動をとり、事前に学習・準備を行い、実習開始後は遅刻・欠席がないように、体調管理は十分に留意して積極的・主体的に学んで下さい。</p>					
VI. この科目を到達するのに必要な課題・学習内容と時間					
<p>事前学習として、成人看護学概論・成人看護学Ⅴで学んだ基本的な理論・知識・看護技術を整理しましょう。 各自の学習が患者への責任であることを自覚して、学習を進めていきましょう。</p>					
VII. 留意事項					

担当教員	開講年次	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
学内担当教員	看護科 3年次 前期	2	90	臨地実習	
I. 授業概要					
健康障害のある対象とその家族を理解し、老年期における健康障害の複雑さと健康段階に応じた援助を学ぶことを目的とする。					
II. 授業の位置づけ					
この科目は、看護科の卒業生像の1. あらゆる看護場面における対象を全人的に理解し、看護実践できる能力を身につけている。3. 人々の畏れを理解し、常に何事にも誠実に対応できる倫理的判断に基づいた行動力が備わっている。4. 安全に看護技術を提供するための科学的根拠に基づいた看護技術の方法が身につけている。7. 専門職として生涯にわたって学ぶ姿勢が身につけている。に寄与している。					
III. 科目目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の全体像を理解し、日常生活援助に必要な情報収集をする。 2. 対象の個別性に応じた看護過程を展開する。 3. 保健医療福祉チームとの連携の実際から医療チームアプローチの必要性を理解する。 					
IV. 評価方法					
評価：評価基準に基づいた合計100点とする。					
V. 学生への助言等					
担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行います。詳細については実習要綱を確認してください。学習した知識・技術を活用して看護実践を行うため、知識や技術が他者に自信を持って活用・実施可能なレベルになるように取り組んでください。また、社会人としての1歩を踏み出す実習になります。看護学生として臨地で実習を行う意味を自覚してください。そのため、看護学生として責任ある行動をとり、事前に学習・準備を行い、実習開始後は遅刻・欠席がないように、体調管理は十分に留意して積極的・主体的に学んで下さい。					
VI. この科目を到達するのに必要な課題・学習内容と時間					
事前学習として、老年看護学で学んだ基本的な理論・知識・看護技術を整理しましょう。各自の学習が患者への責任であることを自覚して、学習を進めていきましょう。					
VII. 留意事項					

担当教員	開講年次	単位数	時間数	授業形態	オフィス アワー
学内担当教員	看護科 3年次 前期	2	30時間/ 90時間	臨地実習	
I. 授業概要					
健康障害が成長・発達段階にあるこどもとその家族に及ぼす影響について学ぶとともに、こどもの健やかな成長・発達の支援や外来看護の機能と役割、及び、特徴を理解し、こどもの安全・安楽な環境と看護実践を学ぶことを目的としている。					
II. 授業の位置づけ					
この科目は、看護科の卒業生像、1のあらゆる看護場面における対象を全人的に理解し、看護実践できる能力を身につけている。と3の人々の畏れを理解し、常に何事にも誠実に対応できる倫理的判断に基づいた行動力が備わっている。と4の安全に看護技術を提供するための科学的根拠に基づいた看護技術の方法が身につけている。と6の地域の医療、福祉等関連領域の人々と連携するための基礎的能力をもち、広い視野と行動力が備わっている。と7の専門職として生涯にわたって学ぶ姿勢が身につけている。に寄与している。					
III. 科目目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害をもつこどもと家族に対する小児科外来の特徴と看護師の役割を理解する。 2. こどもの健康状態が子どもと家族に影響を及ぼすことを理解する。 3. 健康障害とこどもの成長・発達に応じたコミュニケーションを実施する。 4. 健康障害をもつこどもと家族が安全に診療が受けられるための看護援助を実施する。 5. 健康障害をもつこどもに関わる多職種の役割と社会資源の活用方法について理解する。 6. 倫理的に配慮し、こどもの尊厳と権利を尊重する。 					
IV. 評価方法					
評価：評価基準に基づいた合計25点とする。					
V. 学生への助言等					
担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行います。詳細については実習要綱を確認してください。学習した知識・技術を活用して看護実践を行うため、知識や技術が他者に自信を持って活用・実施可能なレベルになるように取り組んでください。看護学生として責任ある行動をとり、事前に学習・準備を行い、実習開始後は遅刻・欠席がないように、体調管理は十分に留意して積極的・主体的に学んで下さい。					
VI. この科目を到達するのに必要な課題・学習内容と時間					
事前学習として、こども看護学で学んだ基本的な理論・知識・看護技術を整理しましょう。各自の学習が患者への責任であることを自覚して、学習を進めていきましょう。					
VII. 留意事項					

担当教員	開講年次	単位数	時間数	授業形態	オフィス アワー
学内担当教員	看護科 3年次 前期	2	30時間/ 90時間	臨地実習	
I. 授業概要					
<p>障がいをもつこどもの療育生活を体験し、ありのままの姿を受け止め、障がいをもって生きるこの意味を理解し、ひとりの人として尊重した態度で接し、命の大切さを学ぶ。また、支援者である家族への配慮や社会的資源の必要性を学び、障がいをもつこどもの特性に合わせた看護援助を実践することを目的としている。</p>					
II. 授業の位置づけ					
<p>この科目は、看護科の卒業生像、1のあらゆる看護場面における対象を全人的に理解し、看護実践できる能力を身につけている。と3の人々の畏れを理解し、常に何事にも誠実に対応できる倫理的判断に基づいた行動力が備わっている。と4の安全に看護技術を提供するための科学的根拠に基づいた看護技術の方法が身につけている。と6の地域の医療、福祉等関連領域の人々と連携するための基礎的能力をもち、広い視野と行動力が備わっている。と7の専門職として生涯にわたって学ぶ姿勢が身につけている。に寄与している。</p>					
III. 科目目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 重症心身障害をもつこどもの生活環境を理解する。 2. 重症心身障害をもつこどもの成長・発達に応じたコミュニケーションを実施する。 3. 重症心身障害をもつこどもの全体像を理解する。 4. 重症心身障害をもつこどもの特性に合わせた看護過程の展開に基づいた日常生活援助を実施する。 5. 重症心身障害をもつ子どもと家族に関わる多職種役割と社会資源の活用方法を理解する。 6. こどもの尊厳を擁護し、倫理的配慮に基づき尊重した態度を身につける。 					
IV. 評価方法					
評価：評価基準に基づいた合計50点とする。					
V. 学生への助言等					
<p>担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行います。詳細については実習要綱を確認してください。学習した知識・技術を活用して看護実践を行うため、知識や技術が他者に自信を持って活用・実施可能なレベルになるように取り組んでください。看護学生として責任ある行動をとり、事前に学習・準備を行い、実習開始後は遅刻・欠席がないように、体調管理は十分に留意して積極的・主体的に学んで下さい。</p>					
VI. この科目を到達するのに必要な課題・学習内容と時間					
<p>事前学習として、こども看護学で学んだ基本的な理論・知識・看護技術を整理しましょう。各自の学習が実習で関わる方への責任であることを自覚して、学習を進めていきましょう。</p>					
VII. 留意事項					

担当教員	開講年次	単位数	時間数	授業形態	オフィス アワー
学内担当教員	看護科 3年次 前期	2	30時間/ 90時間	臨地実習	
I. 授業概要					
<p>地域における子育て支援は養育者が子育ての楽しみ方を学んだり、ストレスや悩みを解決する場となっている。その活動の実際を理解することで、地域で生活する母および家族とそのこどもを支援する方法を学ぶことを目的とする。</p>					
II. 授業の位置づけ					
<p>この科目は、看護科の卒業生像、1のあらゆる看護場面における対象を全人的に理解し、看護実践できる能力を身につけている。と3の人々の畏れを理解し、常に何事にも誠実に対応できる倫理的判断に基づいた行動力が備わっている。と4の安全に看護技術を提供するための科学的根拠に基づいた看護技術の方法が身につけている。と6の地域の医療、福祉等関連領域の人々と連携するための基礎的能力をもち、広い視野と行動力が備わっている。と7の専門職として生涯にわたって学ぶ姿勢が身につけている。に寄与している。</p>					
III. 科目目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 子育て支援センターの概要を理解する。 2. 地域で生活する母及び家族とそのこどもの環境、子育てに関するストレス要因を理解する。 3. 健全な母性を育む保健・福祉、他職種との連携について理解する。 					
IV. 評価方法					
評価：評価基準に基づいた合計25点とする。					
V. 学生への助言等					
<p>担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行います。詳細については実習要綱を確認してください。学習した知識・技術を活用して看護実践を行うため、知識や技術が他者に自信を持って活用・実施可能なレベルになるように取り組んでください。看護学生として臨地で実習を行う意味を自覚してください。そのため、看護学生として責任ある行動をとり、事前に学習・準備を行い、実習開始後は遅刻・欠席がないように、体調管理は十分に留意して積極的・主体的に学んで下さい。</p>					
VI. この科目を到達するのに必要な課題・学習内容と時間					
<p>事前学習として、母性看護学で学んだ基本的な理論・知識・看護技術を整理しましょう。各自の学習が実習で関わる方への責任であることを自覚して、学習を進めていきましょう。</p>					
VII. 留意事項					

担当教員	開講年次	単位数	時間数	授業形態	オフィス アワー
学内担当教員	看護科 3年次 前期	2	30時間/ 90時間	臨地実習	
I. 授業概要					
<p>看護の対象を母性の視点から理解し、母性の健康を保持増進してゆくための看護を学ぶ。周産期の対象理解を深め、必要な知識・技術・態度を学習する。実習を通して生命の尊厳について学習することを目的とする。</p>					
II. 授業の位置づけ					
<p>この科目は、看護科の卒業生像、1のあらゆる看護場面における対象を全人的に理解し、看護実践できる能力を身につけている。と4の安全に看護技術を提供するための科学的根拠に基づいた看護技術の方法が身につけている。と6の地域の医療、福祉等関連領域の人々と連携するための基礎的能力をもち、広い視野と行動力が備わっている。と7の専門職として生涯にわたって学ぶ姿勢が身につけている。に寄与している。</p>					
III. 科目目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 分娩各期の進行に伴う看護を実施する。 2. 産褥期の看護を実施する。 3. 新生児の正常な経過を観察し、必要な援助を実施する。 4. 倫理的配慮に基づいて行動し、自己の母性看護観を形成する。 					
IV. 評価方法					
評価：評価基準に基づいた合計50点とする。					
V. 学生への助言等					
<p>担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行います。詳細については実習要綱を確認してください。学習した知識・技術を活用して看護実践を行うため、知識や技術が他者に自信を持って活用・実施可能なレベルになるように取り組んでください。看護学生として責任ある行動をとり、事前に学習・準備を行い、実習開始後は遅刻・欠席がないように、体調管理は十分に留意して積極的・主体的に学んで下さい。</p>					
VI. この科目を到達するのに必要な課題・学習内容と時間					
<p>事前学習として、母性看護学で学んだ基本的な理論・知識・看護技術を整理しましょう。各自の学習が患者への責任であることを自覚して、学習を進めていきましょう。</p>					
VII. 留意事項					

【授業科目】

母性看護学実習
(外来実習)

Maternity Nursing Practicum

担当教員	開講年次	単位数	時間数	授業形態	オフィス アワー
学内担当教員	看護科 3年次 前期	2	30時間/ 90時間	臨地実習	
I. 授業概要					
性と生殖に関わる健康に問題を持つ対象の理解および女性生殖器に障がいを持つ対象への看護の必要性を理解することを目的とする。					
II. 授業の位置づけ					
この科目は、看護科の卒業生像、1のあらゆる看護場面における対象を全人的に理解し、看護実践できる能力を身につけている。と3の人々の畏れを理解し、常に何事にも誠実に対応できる倫理的判断に基づいた行動力が備わっている。と4の安全に看護技術を提供するための科学的根拠に基づいた看護技術の方法が身につけている。と6の地域の医療、福祉等関連領域の人々と連携するための基礎的能力をもち、広い視野と行動力が備わっている。と7の専門職として生涯にわたって学ぶ姿勢が身につけている。に寄与している。					
III. 科目目標					
1. 婦人科外来の特徴と看護師の役割を理解する。 2. 婦人科外来に受診する対象を理解する。 3. 婦人科外来における看護を実施する。					
IV. 評価方法					
評価：評価基準に基づいた合計25点とする。					
V. 学生への助言等					
担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行います。詳細については実習要綱を確認してください。学習した知識・技術を活用して看護実践を行うため、知識や技術が他者に自信を持って活用・実施可能なレベルになるように取り組んでください。看護学生として臨地で実習を行う意味を自覚してください。そのため、看護学生として責任ある行動をとり、事前に学習・準備を行い、実習開始後は遅刻・欠席がないように、体調管理は十分に留意して積極的・主体的に学んで下さい。					
VI. この科目を到達するのに必要な課題・学習内容と時間					
事前学習として、母性看護学で学んだ基本的な理論・知識・看護技術を整理しましょう。各自の学習が患者への責任であることを自覚して、学習を進めていきましょう。					
VII. 留意事項					

担当教員	開講年次	単位数	時間数	授業形態	オフィス アワー
学内担当教員	看護科 3年次 前期	2	90時間	臨地実習	
I. 授業概要					
<p>精神の疾患・障がいにより日常生活に支障をきたした対象に対して、精神看護学の知識と技術を用い、人権を擁護し、こころの健康の保持増進・回復のための看護を学ぶ。また、対象との関わりから、看護者の感情・思考・言動が対象に及ぼす影響についてを知り、他者理解を深め、患者-看護師関係を学ぶことで今後の看護実践へつなげていくことを目的とする。</p>					
II. 授業の位置づけ					
<p>この科目は本学科のデュプロマ・ポリシー「1.あらゆる看護場面における対象を全人的に理解し、看護実践できる能力を身につけている」「3.人々の畏れを理解し、常に何事にも誠実に対応できる倫理的判断に基づいた行動力が備わっている」「4.安全に看護技術を提供するための科学的根拠に基づいた看護技術の方法が身につけている」「6.地域の医療、福祉等関連領域の人々と連携するための基礎的能力をもち、広い視野と行動力が備わっている」「7.専門職として生涯にわたって学ぶ姿勢が身につけている」に寄与している。</p>					
III. 科目目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科病院・病棟の特徴と看護の役割を理解する。 2. 精神看護を必要とする対象の全体像を理解する。 3. 看護過程の展開に基づいた、日常生活援助を実施する。 4. 対象への看護援助や関わりを通して、自己の感情や行動の傾向を知り、自己洞察する。 5. 精神看護における保健・医療・福祉のチームのメンバーとの連携と看護師の役割を理解する。 					
IV. 評価方法					
評価：評価基準に基づいた合計100点とする。					
V. 学生への助言等					
<p>詳細については実習要綱を確認する。1・2年次で学習した「精神看護学概論」「精神看護学方法論Ⅰ」「精神看護学方法論Ⅱ」「精神看護学方法論Ⅲ」の知識・技術を統合し、実習を行います。担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行います。学習した知識・技術を活用して看護実践を行うため、知識や技術が他者に自信を持って活用・実施可能なレベルになるように取り組んでください。看護学生として臨地で実習を行う意味を自覚してください。そのため、看護学生として責任ある行動をとり、事前に学習・準備を行い、実習開始後は遅刻・欠席がないように、体調管理は十分に留意して積極的・主体的に学んで下さい。</p>					
VI. この科目を到達するのに必要な課題・学習内容と時間					
<p>事前学習として、精神看護学で学んだ基本的な理論・知識・看護技術を整理しましょう。各自の学習が患者への責任であることを自覚して、学習を進めていきましょう。</p>					
VII. 留意事項					

担当教員	開講年次	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
学内担当教員	看護科 3年次 後期	2	90時間	臨地実習	
I. 授業概要					
<p>地域で暮らす療養者にとって安心して生活ができる在宅医療・看護の在り方について学ぶ。また、在宅で生活するあらゆる対象を取り巻く環境と家族の役割、社会資源の活用方法の実際について学び、QOLを支援しその人らしく、もてる力を発揮できる関わり方や看護を理解することを目的とする。</p>					
II. 授業の位置づけ					
<p>この科目は本学科のデュプロマ・ポリシー「1.あらゆる看護場面における対象を全人的に理解し、看護実践できる能力を身につけている」「3.人々の畏れを理解し、常に何事にも誠実に対応できる倫理的判断に基づいた行動力が備わっている」「4.安全に看護技術を提供するための科学的根拠に基づいた看護技術の方法が身につけている」「6.地域の医療、福祉等関連領域の人々と連携するための基礎的能力をもち、広い視野と行動力が備わっている」「7.専門職として生涯にわたって学ぶ姿勢が身につけている」に寄与している。</p>					
III. 科目目標					
<ol style="list-style-type: none"> 療養者を取り巻く環境や生活状況を理解する。 在宅で生活する対象の健康生活を支援する保健医療福祉体制や連携協働の実際から、看護の役割を理解する。 在宅で療養する対象を理解する。 在宅で療養する対象の暮らしや生き方を尊重した看護を実施する。 療養者に必要な社会資源の活用、保健・医療・福祉制度を理解する。 対象への倫理的配慮の必要性を理解したうえで、看護を実践する。 					
IV. 評価方法					
評価：評価基準に基づいた合計100点の評価とする。					
V. 学生への助言等					
<p>担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行います。詳細については実習要綱を確認してください。学習した知識・技術を活用して看護実践を行うため、知識や技術が他者に自信を持って活用・実施可能なレベルになるように取り組んでください。また、社会人としての一歩を踏み出す実習になります。看護学生として責任ある行動をとり、事前に学習・準備を行い、実習開始後は遅刻・欠席がないように、体調管理は十分に留意して積極的・主体的に学んで下さい。</p>					
VI. この科目を到達するのに必要な課題・学習内容と時間					
<p>事前学習として、在宅看護学で学んだ基本的な理論・知識・看護技術を整理しましょう。各自の学習が患者への責任であることを自覚して、学習を進めていきましょう。</p>					
VII. 留意事項					

【授業科目】

看護マネジメントと
統合看護技術Nursing management &
Integrated nursing skills

担当教員	開講年次	単位数	時間数	授業形態	オフィス アワー
萬中 香/菊井 友/ 大橋 純子	看護科 3年次 後期	1	30	講義 演習	
I. 授業概要					
看護ケアの実践や看護サービス提供の仕組みなど、看護マネジメントが看護管理者だけでなく、看護実践者にも必要な知識と技術であることを学ぶ。また個々のマネジメント・他のメンバーとの調整力・連携能力を学び、チームリーダーとしてチームの管理方法を学ぶ。さらにチームで複数患者を担当するシミュレーション学習を行い、看護技術の統合を図ることを目的とする。					
II. 授業の位置づけ					
この科目は本学科のデュプロマ・ポリシー「1.あらゆる看護場面における対象を全人的に理解し、看護実践できる能力を身につけている」「4.安全に看護技術を提供するための科学的根拠に基づいた看護技術の方法が身につけている」「6.地域の医療、福祉等関連領域の人々と連携するための基礎的能力をもち、広い視野と行動力が備わっている」「7.専門職として生涯にわたって学ぶ姿勢が身につけている」に寄与している。					
III. 科目目標					
1. 看護と看護ケアのマネジメントの定義・概念構成及び基本的要素を理解する。 2. 看護サービスのマネジメントの目的とその方法を理解する。 3. リーダーシップの定義や特性理論・行動理論などマネジメントに必要な知識と技術を習得する。 4. マネジメントスキルを習得する。 5. 病院内における実践的な場面を想定したシミュレーション演習を実践し、時間管理や状況判断力など看護師として必要な技術を習得する。					
IV. 教科書					
系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践① 医学書院 多重課題クリアナート Gakken					
V. 参考書					
VI. 評価方法					
評価：筆記試験70点、パフォーマンス課題によるルーブリック評価30点の合計100点の評価とする。					
パフォーマンス課題：あなたは新人看護師です。4人の患者を担当しています。優先順位を考えた看護を提供するスケジュールを具体的に立て、チームリーダーに報告してください。					
レベル	大変よい(30点)	よい(15点)	努力が必要(5点)		
評価 規準	患者の治療の状況や患者のニーズに合わせた看護スケジュールを具体的に計画し、優先順位を決定している。	患者の治療の状況に合わせた看護スケジュールを具体的に計画し、優先順位を決定している。	内容がなく、理論や知識を活かすことなく、看護スケジュールを計画し、自分の思うことだけで優先順位を決定している。		

評価 の視点	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/>治療計画<input type="checkbox"/>リハビリテーション計画<input type="checkbox"/>入院中の生活習慣<input type="checkbox"/>検査の予定<input type="checkbox"/>タイムスケジュール<input type="checkbox"/>A3の用紙に具体的に記されている。<input type="checkbox"/>問いに対し、結論に至るまでの内容に一貫性がある。
-----------	--

VII. 学生への助言等			
<p>担当教員は、臨床での看護師経験を活かし、看護マネジメントと統合看護技術を指導します。積極的に学ぶ姿勢で受講してください。また、看護は広い学習が必要です。日頃から保健・医療や福祉に関する新聞記事やニュースなどの報道に関心を持つなど、色々なことに関心を持ち、多くの体験と学習をして視野を広げ、自己の問いを育む姿勢で学習を深めていきましょう。</p>			
VIII. この科目を到達するのに必要な課題・学習内容と時間			
<p>1. 授業の前後は予・復習を行う。(1日45分の予・復習：15回で675分) 授業前は 指定の教科書、参考書を事前に読み、内容を整理しておく。 授業後は講義で学んだ部分について教科書の該当する部分を参考に、ノートや配布資料を整理しておく。 * 課題学習と授業時間を合わせて45時間(1時間は45分の計算とする)の学習により単位を修得するものとする。</p>			
IX. 留意事項			
X. 授 業 計 画			
回数	単元名・授業内容	到達目標	担当名
1	<u>看護と看護ケアのマネジメントとキャリアマネジメント(1)</u> 看護マネジメントの定義	看護マネジメントの定義を述べる。	菊井友
2	<u>看護と看護ケアのマネジメントとキャリアマネジメント(2)</u> 看護ケアのマネジメントと看護師の機能と役割	看護ケアのマネジメント・看護師の機能と役割を説明できる。	
3	<u>看護と看護ケアのマネジメントとキャリアマネジメント(3)</u> キャリア形成とキャリアラダーの目的	キャリア形成とキャリアラダーの目的を述べる。	
4	<u>看護サービスのマネジメント(1)</u> 組織目的達成のマネジメント 看護サービス提供の仕組みづくり	組織目的達成のマネジメントを説明できる。 看護サービス提供の仕組みづくりを説明できる。	大橋純子
5	<u>看護サービスのマネジメント(2)</u> 人材マネジメント	人材マネジメントを説明できる。	
6	<u>看護サービスのマネジメント(3)</u> 診療報酬と費用対効果、在院日数	診療報酬と費用対効果を説明できる。	
7	<u>マネジメントに必要な技術(1)</u> リーダーシップ	リーダーシップを説明できる。	萬中香
8	<u>マネジメントに必要な技術(2)</u> タイムマネジメント	タイムマネジメントを説明できる。	
9	<u>マネジメントに必要な技術(3)</u> ストレスマネジメント	ストレスマネジメントを説明できる。	
10	<u>実践的な場面を想定したシミュレーション演習(1)</u>	複数患者のアセスメントができる。	
11	<u>実践的な場面を想定したシミュレーション演習(2)</u>	タイムマネジメントができる。	
12	<u>実践的な場面を想定したシミュレーション演習(3)</u>	優先度が判断できる。	
13	<u>実践的な場面を想定したシミュレーション演習(4)</u>	優先度を考えた看護技術の提供ができる。	

14	<u>実践的な場面を想定したシミュレーション演習(5)</u> パフォーマンス評価会	タイムマネジメントや優先度について自己の考えを述べる。
15	<u>総括・試験</u> 授業総括 本試験	

担当教員	開講年次	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
倉島 正成	看護科 3年次 後期	1	30	講義 演習	
I. 授業概要					
我が国は近年、自然災害が多発し、人々は命や健康を損ない多くの被害を受けた。このような状況下で、被災傷病者の医療・看護への期待は大きく、看護職は人々の健康に関わる専門職者として大きな役割を担っている。災害時の看護活動を円滑に行うために必要となる災害医療の基礎知識を理解するとともに、災害サイクルに応じた活動現場に応じた看護活動を理解する。また、被災された方の特性に応じた災害看護の方法、及び被災者の心のケアの必要性を理解することを目的とする。					
II. 授業の位置づけ					
この科目は本学科のデュプロマ・ポリシー「1.あらゆる看護場面における対象を全人的に理解し、看護実践できる能力を身につけている」「4.安全に看護技術を提供するための科学的根拠に基づいた看護技術の方法が身につけている」「6.地域の医療、福祉等関連領域の人々と連携するための基礎的能力をもち、広い視野と行動力が備わっている」「7.専門職として生涯にわたって学ぶ姿勢が身につけている」に寄与している。					
III. 科目目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害医療・災害看護に必要な基礎知識を理解する。 2. 災害サイクルに応じた活動現場の災害看護の目的とその必要性を理解する。 3. 被災者特性に応じた災害看護について理解する。 4. こころのケアの必要性を理解する。 					
IV. 教科書					
系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践③ 災害看護学・国際看護学 医学書院					
V. 参考書					
VI. 評価方法					
評価：筆記試験100点の評価とする。					
VII. 学生への助言等					
<p>担当教員は、臨床での看護師経験を活かし、災害看護学を指導します。</p> <p>予習、復習を自主的に行い、積極的に学ぶ姿勢で受講してください。また、看護は広い学習が必要です。日頃から保健・医療や福祉に関する新聞記事やニュースなどの報道に関心を持つなど、色々なことに関心を持ち、多くの体験と学習をして視野を広げ、自己の問いを育む姿勢で学習を深めていきましょう。</p>					
VIII. この科目を到達するのに必要な課題・学習内容と時間					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の前後は予・復習を行う。(1日45分の予・復習：15回で675分) 授業前は 指定の教科書、参考書を事前に読み、内容を整理しておく。 授業後は講義で学んだ部分について教科書の該当する部分を参考に、ノートや配布資料を整理しておく。 <p>* 課題学習と授業時間を合わせて45時間(1時間は45分の計算とする)の学習により単位を修得するものとする。</p>					

IX. 留意事項			
X. 授業計画			
回数	単元名・授業内容	到達目標	担当名
1	<u>災害医療・災害看護の基礎知識(1)</u> 災害の定義と種類及び健康障害 災害医療の特徴と職種間・組織間連携 災害看護と法律	災害の定義・種類を説明できる。 災害医療の特徴と職種間・組織間連携について説明できる。	倉島 正成
2	<u>災害医療・災害看護の基礎知識(2)</u> 災害看護の定義と役割及び対象 災害看護の特徴と看護活動	災害看護の特徴と看護活動の内容を説明できる。	
3	<u>災害時の体系的アプローチの方法</u> CSCATTT	災害時の体系的アプローチの方法を説明できる。	
4	<u>災害時のトリアージ</u> トリアージの方法と実技 トリアージタグの記載	トリアージの方法を説明できる。 START法トリアージを実践できる。 トリアージタグを記載できる。	
5	<u>災害サイクルに応じた活動現場の災害看護(1)</u> 急性期・亜急性期	災害サイクルに応じた活動現場の災害看護を説明できる。	
6	<u>災害サイクルに応じた活動現場の災害看護(2)</u> 慢性期・復興期	災害サイクルに応じた活動現場の災害看護を説明できる。	
7	<u>災害サイクルに応じた活動現場の災害看護(3)</u> 静穏期	災害サイクルに応じた活動現場の災害看護を説明できる。	
8	<u>被災者特性に応じた災害看護(1)</u> 子どもに対する災害看護	子どもに対する災害看護を説明できる。	
9	<u>被災者特性に応じた災害看護(2)</u> 妊産婦に対する災害看護	妊産婦に対する災害看護を説明できる。	
10	<u>被災者特性に応じた災害看護(6)</u> 高齢者に対する災害看護	高齢者の身体的特性・精神的特性と災害看護を説明できる。	
11	<u>被災者特性に応じた災害看護(3)</u> 障がい者・慢性疾患患者に対する災害看護	障がい者・慢性疾患患者に対する災害看護を説明できる。	
12	<u>被災者特性に応じた災害看護(6)</u> 外国人に対する災害看護	外国人に対する災害看護を説明できる。	
13	<u>災害とこころのケア(1)</u> 被災者のこころのケアと実際 遺族のこころのケア	被災者のこころのケアを説明できる。 遺族のこころのケアを説明できる。	
14	<u>災害とこころのケア(2)</u> 被災救護者のこころのケア 救援者のストレスとこころのケア	被災救護者のこころのケアを説明できる。 救援者のストレスとこころのケアを説明できる。	
15	<u>総括・試験</u> 授業総括 本試験		

担当教員	開講年次	単位数	時間数	授業形態	オフィス アワー
学内担当教員	看護科 3年次 後期	2	90時間	臨地実習	
I. 授業概要					
<p>看護業務を行う看護チームの一員として、看護マネジメントできる基礎的能力と既習した知識・技術をもとに、臨床現場に即した実践能力を養う。また、チームナーシングを通し、リーダーやメンバーの役割とチーム医療の必要性を学ぶことを目的とする。</p>					
II. 授業の位置づけ					
<p>この科目は本学科のデュプロマ・ポリシー「1.あらゆる看護場面における対象を全人的に理解し、看護実践できる能力を身につけている」「3.人々の畏れを理解し、常に何事にも誠実に対応できる倫理的判断に基づいた行動力が備わっている」「4.安全に看護技術を提供するための科学的根拠に基づいた看護技術の方法が身につけている」「6.地域の医療、福祉等関連領域の人々と連携するための基礎的能力をもち、広い視野と行動力が備わっている」「7.専門職として生涯にわたって学ぶ姿勢が身につけている」に寄与している。</p>					
III. 科目目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院・病棟の看護管理とチームナーシングの実際を理解する。 2. 複数患者の対象の特徴を理解する。 3. 複数患者に対する看護を優先順位を考え実践する。 4. 倫理的配慮に基づいて行動し、自己の看護観を形成していた。 					
IV. 評価方法					
評価：評価基準に基づいた合計100点の評価とする。					
V. 学生への助言等					
<p>担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行います。詳細については実習要綱を確認してください。学習した知識・技術を活用して看護実践を行うため、知識や技術が他者に自信を持って活用・実施可能なレベルになるように取り組んでください。また、社会人としての1歩を踏み出す実習になります。看護学生として臨地で実習を行う意味を自覚してください。そのため、看護学生として責任ある行動をとり、事前に学習・準備を行い、実習開始後は遅刻・欠席がないように、体調管理は十分に留意して積極的・主体的に学んで下さい。</p>					
VI. この科目を到達するのに必要な課題・学習内容と時間					
<p>事前学習として、今までに学んだ理論・知識・看護技術を整理しましょう。 各自の学習が患者への責任であることを自覚して、学習を進めていきましょう。</p>					
VII. 留意事項					